

【安徽省肥東縣湖濱鄉中日友好灌溉用水設備建設計畫】

被供与団体:安徽省肥東縣人民政府

供与額:48,943ドル

契約署名日:平成7(1995)年2月4日

案件概要:

肥東縣湖濱鄉は、巢湖の北岸に位置しているが、緩やかな丘陵になっているため、水が届かず毎年干ばつに見舞われ、約8,000戸の農家は農業用水と飲料水の確保が困難となっていた。このプロジェクトは、灌溉用水を8km引き30mの落差を5段の揚水ポンプで汲み上げて水を安定的に供給することを目的としたもので、草の根無償資金の41.4万元(土木工事費用)と地元政府からの約40万元の資金により、プロジェクトを完成させた。

現在では、同郷は六家田反鎮と名前を換え、風光明媚な巢湖の風景を生かした観光業に力を入れているが、交通が不便なことあっても本格的な経済発展はこれからである。

<関連写真>



【安徽省蚌埠市第三人民医院集中治療室改善計画】

被供与団体:安徽省蚌埠市第三人民医院

供与額:92,882 米ドル

契約署名日:平成 7(1995)年 12 月 9 日

案件概要:

蚌埠市第三人民医院は、1954年に建設された総合病院であり、安徽省北部の救急センターの役割を果たし、災害や事件発生時の救急グループ組織病院に指定されている。1994年に、新しい救急病棟を建設したが、予算不足のため、救急医療の先進的医療機器を設置できないままとなっていた。

本件では、集中治療室に必要な多機能ベッド、監護装置、人工腎臓、十二指腸スコープ等の購入費用を支援した。供与された機材は、現在、フルに活用されており、同地の救急医療を支えている。

<関連写真>



【安徽省宿県地区第二人民医院診療機器拡充計画】

被供与団体:安徽省宿県地区第二人民医院

供与額:84,508 米ドル

契約署名日:平成 9(1997)年 3 月 14 日

案件概要:

宿県地区は、人口 540 万人の安徽省北部の地方都市であり、洪水多発地域でもある。省最大の石炭採掘地域で、約 20 万人の炭鉱労働者がいるため、消化器、呼吸器を中心とした疾患患者が比較的多くなっている。宿県地区第二人民医院は、1966 年に設立された総合病院であるが、早急に胃部透視レントゲン機材を購入する必要があることから、草の根無償資金より購入資金を供与した。機材設置直後の 3 ヶ月だけで、160 例もの造影検査に使用され、使用実績を重ねている。

<関連写真>



【安徽省金賽県南溪中学校宿舍建設計画】

被供与団体:安徽省金賽県南溪中学校

供与額:79,536 米ドル

契約署名日:平成 9(1997)年 3 月 14 日

案件概要:

金賽県は、安徽省の最西部の人口約 4.8 万人の県である。金賽県南溪中学校は、1956 年に設立され、教育

水準が高いことで知られており、全校生徒 2,200 名（高等部を含む）は貧困地域ながら勤勉に勉学に励んでいる。1996 年に校舎が新築されたが、寄宿舎は倒壊の危険があるにもかかわらず後回しにされたため、寄宿生活を送る 1,500 人の学生は、500 の 2 段ベッドで生活するという劣悪な生活環境にあった。本件は、約 800 人の生徒を収容できる新しい寄宿舎の建設費用 140 万元のうち約 66 万元を支援したもので、男子宿舎の建設に充てられた。

2001 年現在、生徒数は 2,700 人に増加しているが、設備、環境、教育水準共に優れ、六安市のモデル校に指定されている。

<関連写真>



【安徽省利辛县中医院病棟建設計画】

被供与団体: 安徽省利辛县中医院

供与額: 82,395 米ドル

契約署名日: 平成 10(1998)年 2 月 23 日

案件概要:

利辛県は、安徽省西北部にある人口 130 万人の農業主体の地域である。利辛県中医院は県内にある 3 カ所の県級病院の一つであり、1990 年に既存の建物を利用して開設された中医専門の病院である。しかし、建物の老朽化が激しく、医療条件も悪かったため建て替えが急務となっていた。

新病棟は、旧病棟から約 1 km 離れたところに総額 220 万元をかけて建設され、5 階建て(一部 6 階)で病室 68 室(150 床)と ICU4 室を備えており、名実共に同地域の中核的医療施設となっている。

<関連写真>



【安徽省金寨县果子园小学校建設計画】

被供与団体: 安徽省金寨县果子园小学校

供与額: 68,959 米ドル

契約署名日: 平成 10(1998)年 2 月 23 日

案件概要：

金賽県は、安徽省最西部にある中国初の「希望工程」が実施された貧困地域である。果子園小学校は、1953年に建設されたが校舎が小さい上に倒壊の危険すらあることから、新校舎が建設されることとなり、草の根無償資金でその費用の大部分を供与した。新しい校舎は、図書館、実験室、職員室等を含めて 33 教室を備えており、その地域で最も目を引く建物となっており、現在、約 400 名の生徒が学んでいる。

同校の校歌には「日本の友人の情誼を忘れない(不忘日本友人情誼)」との一節が入っている。

<関連写真>





【安徽省蚌埠市第二中学校科学技术教育館建設計画】

被供与団体:安徽省蚌埠市第二中学校

供与額:87,203 米ドル

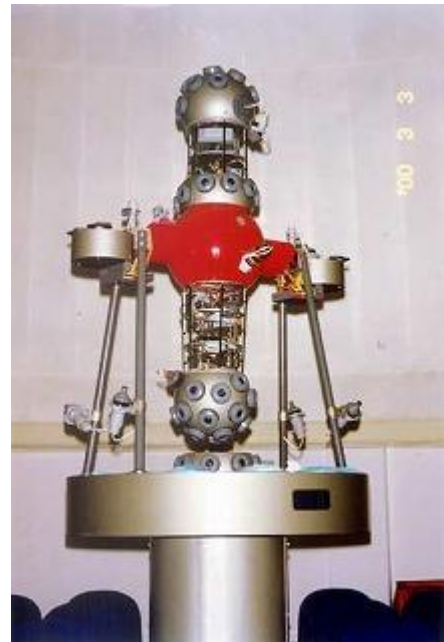
契約署名日:平成 10(1998)年 2 月 23 日

案件概要:

蚌埠市第二中学校は、生徒約 3,400 人を擁する同市重点中学校であり、特に外国語教育と理科教育を重視している。1995 年に 5 階建ての新校舎が完成したが、その屋上に天文館(天体ドーム、星座館)を建設することになり、本件はその総工費 142 万元のうち 72 万元を供与した。

完成後、同校の設備として使用されるのみならず、社会一般に開放され、科学技術を身近なものに普及するセンターとしての機能を発揮しており、「蚌埠市青少年科学普及教育基地」及び「安徽省青少年科学普及活動中心」に命名されている。「流星観測会」等の活動が活発に行われ、2001 年 4 月現在、参観者は約 7,000 人に達している。

<関連写真>





【安徽省鳳陽縣小崗村農業發展計劃】

被供与団体:安徽省鳳陽縣農業局

供与額:83,187 米ドル

契約署名日:平成 10(1998)年 10 月 16 日

案件概要:

鳳陽縣、特に小崗村は、かつて全国に先駆けて世帯請負責任制を実施した「中国農村改革第一村」として広く知られているが、その後の經濟發展は停滯していた。そこで、縣農業局は農牧畜業を牽引力として 67 万人の縣民の生活向上を図るため、家畜養殖場、養魚場、牧畜技術サービスセンター棟を建設することにした。

本件は、そのセンターの総工費 80 萬元のうち約 68 萬元を供与するものである。本センターでの啓蒙教育の結果、農民の勤勞意欲が向上し、周辺地域での農作物作付け率が 90%に達し、家畜の伝染病發生率が低下する等、徐々に具体的成果が現れてきている。

<関連写真>





【安徽省縱陽縣鳳儀鄉衛生院医療棟建設計画】

被供与団体:安徽省縱陽縣衛生局

供与額:84,744 米ドル

契約署名日:平成 11(1999)年 1 月 26 日

案件概要:

縱陽縣は、安徽省中南部の長江沿いに位置する人口約 100 万人の県で、同県に属する鳳儀鄉は、長江の中州(長江岸の渡し場から 1 日 2 便の船で約 20 分)にある人口 1 万人の寒村である。

鳳儀鄉衛生院は、1952 年の設立以来、同地域唯一の病院として地域住民の健康管理に当たり、1995 年には郷の中核的な医療機関に格上げするために設備を拡充したところ、1998 年の長江大洪水で壊滅的な打撃を受けた。

本計画は、本院をより安全な位置に移転して再建するための経費を支援するもので、診療棟の建設費計 96 万

元のうちの44万元とレントゲンや超音波器等基本的な医療器材の購入費約26万元を供与した。診療科が多く、地域の「モデル衛生院」に指定されたこともあり、完成後の1年間で来院者数は以前の3倍の延べ9,700人に増加し、地域医療を支えている。

<関連写真>



【安徽省霍山县社会福祉院建設計画】

被供与団体:安徽省霍山县民政局

供与額:81,218 米ドル

契約署名日:平成 11(1999)年 8 月 24 日

案件概要：

霍山県は、安徽省中西部に位置する県である。人口約 36 万人のうち、身よりのない老人が 3,000 人余り、孤児が 220 人程いるが、地域全体が貧困から脱却できていないため、かかる社会的弱者のための設備が不十分なままとっていた。そこで、社会福祉院を新たに建設して約 80 人(孤児 30 人と老人 50 人)を収容すると共に、活動室や医務室、食堂等を備えた活動や交流の場とすることが計画された。本件は、その建設費用計 273 万元のうち約 67 万元を供与するものである。

<関連写真>



【安徽省安慶市再就職訓練センター建設計画】

被供与団体：安徽省安慶市外事弁公室

供与額：73,325 米ドル

契約署名日：平成 11(1999)年 8 月 24 日

案件概要：

安慶市は、市街地人口約 100 万人の省南部の中核都市である。国有企業改革の過程で約 4 万人の一時解雇者が発生したが、その多くが手に職を持たない中年の女性であったため、多くの家庭が生活苦に直面することとなった。市では、貧困家庭の負担を軽減するために、再就職のための職業訓練センターを建設して、コンピューター、自動車修理、料理、裁縫等各種のコースを設ける計画を立てた。これにより、年間約 2,000 名に再就

職の道が開かれることが見込まれている。

本件は、センターの建設費 180 万元のうち、不足する約 60 万元を供与したものである。センターは 7 階建てで 3 階には友好都市である大阪府茨木市との交流センターも設けられており、日本との交流の中心的な場所になっている。

<関連写真>



【安徽省太湖县社会福祉院建設計画】

被供与団体:安徽省太湖县民政局

供与額:73,217 米ドル

契約署名日:平成 12(2000)年 2 月 18 日

案件概要:

江西省との省境に近い安徽省太湖县は、人口 57 万人の県である。同県には、生活に困難を抱える高齢者のケアを目的とした「社会福祉院(老人ホーム)」があるが、1951 年に建設されたもので、老朽化が激しく収容人数も 46 人と限界があるため、新たに孤児、障害者も対象とした新しい福祉院を建設する計画が建てられた。

本件は、その総工費 250 万元のうち、手当のつかない約 60 万元を供与するというものである。新しい福祉院は 46 室のアパート式の高齢者住宅をはじめ、リハビリ室、娯楽室、医務室などを備えている。

<関連写真>



【安徽省利辛県中医医院医療機材整備計画】

被供与団体:安徽省利辛県中医医院

供与額:84,868 米ドル

契約署名日:平成 12(2000)年 9 月 7 日

案件概要:

利辛県は、国家級貧困県であり、1990 年に設立された中医医院は病室すらない簡易の保健機関であった。平成 9(1997)年度の草の根無償資金協力案件として新しい病棟の建設費用 8.2 万ドルを供与し、150 床を備える病院として平成 12(2000)年夏から運用が開始されていた。

本計画は、その病棟の設備をより有効に活用し、県民の広範な需要に応じるため、同病院に対して超音波診断装置や麻酔器材などの医療器材を購入する費用を供与したものである。2 回の資金協力を通じて、2 つの手術室を完備した地域の中核的医療機関になったのみならず、日本政府が実施している「利民工程(草の根無償資金協力)」の活動が、住民に大きく知られるようになった。

<関連写真>



【安徽省阜南縣馬塘中學校建設計畫】

被供与団体:安徽省阜南縣外事弁公室

供与額:77,174 米ドル

契約署名日:平成 12(2000)年 9 月 7 日

案件概要:

安徽省北西部、河南省との省界に位置する阜南縣は、農業を主要産業とする人口約 142 万人の県で、沿海都市に多くの労働者を出している地域でもある。馬塘中學校は 1956 年に阜南縣苗集鎮(人口 5.3 万人)に創立された全校生徒約 800 人の中學校であるが、教室不足と建物の急速な老朽化が進んだため、新しい校舎の建設が急務となっていた。

新校舎は、旧校舎から約 1.5 km離れたところに、本件援助資金約 60 万元を含む総額 105 万元をかけて建設された。図書室や実験室等 18 教室を備えた 4 階建ての白い校舎は、地域で唯一非常に目立つ建物となっている。今後生徒数が増加することが予想されているが、最大 1,300 名程度まで受け入れることが可能となった。

<関連写真>





【安徽省宿州市精神病予防治療センター器材購入計画】

被供与団体:安徽省宿州市精神病予防治療中心

供与額:61,319 米ドル

契約署名日:平成 12(2000)年 9 月 7 日

案件概要:

宿州市は、安徽省最北部にある農業中心の人口 563 万人の地方都市である。宿州市精神病予防治療センターは、1968 年に設立された安徽省北部最大の精神病専門の医療機関であり、薬物依存症患者のリハビリ機関にもなっている。年間の外来患者数は延べ 3,000 人を越えるが、治療の過程で薬を服用し、肝臓や腎臓等の内臓に副作用の疾患を抱えることが多い。そこで、治療の効果を高め、患者の苦痛を軽減するために、新しい超音波診断装置と心電図装置を購入することとなった。本件は、その機材と一元化管理のためのコンピューター一式の購入費用に充てられた。

<関連写真>



【安徽省淮南市農業技術訓練センター建設計画】

被供与団体:安徽省淮南市農業技術訓練センター

供与額:91,385 米ドル

契約署名日:平成 12(2000)年 9 月 7 日

案件概要:

淮南市は、安徽省中部に位置する人口約 200 万人の炭鉱を中心とした地方都市である。淮南市農業技術訓練センターは、周辺の農村部に居住する約 100 万人の生活向上を目的として 1999 年に市政府が 500 万元を投資して設立されたものである。7 万㎡の敷地に 5 つの温室を備え、主に当地に適応した温室栽培技術の開発を目的としていたが、そのノウハウを周辺地域の農民に普及するために講義棟や実験場を新たに整備することになり、360 万元に上る総工費のうち不足分を草の根無償により援助することになった。農閑期を中心に 1 日から 2 週間までのさまざまなプログラムが実施されており、完成から半年間で 14 期、延べ 2,400 人がここで指導を受けた。また、日本人専門家を招へいた講義も行われている。

<関連写真>





【安徽省キ門県身障者リハビリセンター建設計画】

被供与団体:安徽省キ門県身体障害者連合会

供与額:84,745 米ドル

契約署名日:平成 13(2001)年 7 月 10 日

案件概要:

キ門県は、安徽省の最南端に位置する人口 18 万人余りの紅茶で有名な農業県である。全県に約 6,500 人の身体障害者がおり、その多くは一定の労働能力を有しているが、リハビリを受ける機会がないため経済的自立がままならず、うち 2,000 人余りが貧困状態にあった。こうした状態を解消するために、県では約 120 万元をかけて総合的なリハビリセンターを建設することになり、本件は、約 70 万元を供与したものである。これにより、症例が多い白内障の治療も可能となり、隣接する江西省、浙江省にも裨益効果が及ぶことが見込まれている。

<関連写真>



【安徽省霍邱縣岔路鎮棗林灌溉設備整備計画】

被供与団体:安徽省霍邱縣外事弁公室

供与額:92,009 米ドル

契約署名日:平成 13(2001)年 7 月 10 日

案件概要:

霍邱縣は、安徽省西部に位置する人口 144 万人の貧困縣である。地形が複雑で例年のように干魃や洪水といった自然災害の影響を受けやすく、農民の生活水準は改善を見ず、同縣の一部では生活用水の確保にも困難を来していた。

本施設は、電力灌溉施設に加えて給排水ポンプ、水門等の関連施設を建設するもので、総工費約 90 万元に対し、草の根無償資金より約 76 万元を支援した。周辺 400 ヘクタールの耕地で安定した農業生産を行うことが可能となり、約 3,800 人に裨益している。

<関連写真>



【安徽省利辛县胡集镇贾桥职业中学校校舍建设计划】

被供与団体:安徽省利辛县胡集镇人民政府

供与額:84,745 米ドル

契約署名日:平成 14(2002)年 2 月 27 日

案件概要:

利辛县は、安徽省北部に位置する国家級貧困県であり、同県の胡集镇は人口 8.2 万人の農業中心の村で、2000 年の1人当たりの平均収入は、僅か 521 元(約 8,500 円)である。

贾桥职业中学校は、1946 年に開校した農業技術等の指導を行う中学校で、重要な義務教育機関である。当時、生徒数は 20 クラスの 1468 名、教職員は 40 名であったが、校舎が絶対的に不足していた上、倒壊の危険建物に指定されている部分もあったため、鎮内の 4カ所の学校に分かれて授業を行わざるを得ない状態であった。

そこで、新たに4階建て、1,630㎡、16教室を備えた校舎が建設されることになり、総建設費用80.2万元のうち、地元政府の負担額(10万元)を除いた不足分(約70万元)につき、草の根無償資金が申請された。

現在、同校は農業技術や科学技術普及の基地として一般市民にも開放されており、農業技術の研修が行なわれている。中には、研修で学んだ技術を生かし、椎茸栽培事業を始めるものや、就職口が決まるものなど、目に見える効果が現れている。また、学校の地理的利便性により、貧困家庭の生徒が復学したという喜ばしい情報も報告されている。

<関連写真>



【安徽省淮北市朝陽医院増築計画】

被供与団体:安徽省淮北市外事弁公室

供与額:92,009 米ドル

契約署名日:平成 14(2002)年 2 月 27 日

案件概要：

淮北市は安徽省北部に位置し、人口 190 万人の地方都市で石炭を産出しているが、近年、構造調整のため、経済が停滞しており、社会福祉への投資が不足している。地下水に多くの鉱物が含まれているので、胆結石、腎結石や肺の疾患、更には農薬中毒の病が多い。

朝陽医院は 1996 年に設立された総合病院であるが、設備が簡易なため、このような多様な病例に対応することが極めて難しい状況にあった。本計画は、同院に 5 階建て、建築面積 2,800 m²に増築して、ベッド数を 100 床に拡大、医療機材の一部も刷新することとなり、総経費約 250 万元のうち、約 76 万元を草の根無償資金により支援するものである。現在、裨益人数は5万人から15万人へと拡大し、医療水準は著しく向上し、市の中核的な総合病院になりつつある。

<関連写真>



【安徽省蚌埠市西区医院医療設備整備計画】

被供与団体:安徽省蚌埠市西区人民医院

供与額:90,799 米ドル

契約署名日:平成 14(2002)年 2 月 27 日

案件概要:

蚌埠市は、安徽省北部に位置し、西区医院は人口 35 万人を抱える同市西区の中核的な総合医療施設である。1975 年に開設された同院は、1997 年と 1998 年に連続して洪水被害を受け、建物が破損し設備も使用不能となった。市政府は、同院を建て替えたが、医療設備は 80 年代に購入した旧式の X 線装置、心電図機、超音波診断装置の 3 台があるのみで、本格的な検査、治療を要する患者が発生した場合は隣接地域の病院に搬送している状態で、市民の高まる需要に充分に応えることができなくなった。そこで、心電図機、生化学分析機器など 8 項の医療設備を整備することになり、その経費約 75 万元を草の根無償によって供与した。本件の実施により、無料健康診断も実施される。

<関連写真>



【安徽省ジョ州市中医院医療器材整備計画】

被供与団体:安徽省ジョ州市中医院

供与額:81,084 米ドル

契約署名日:平成 14(2002)年 2 月 27 日

案件概要:

ジョ州市中医院は、市内 4 カ所ある市クラスの総合病院のうち唯一中国医学専門科を備えており、年間外来患者数は約 6.7 万人の病院である。同院では、衛生状態の悪い農村地域に多く見られる肝臓、腎臓疾患と事故

や建設労働に起因する整形外科の患者を多く受け入れており、特に後者では中国医学と西洋医学を結合させた治療が効果を上げている。より正確な診断を行い、治療の苦痛を減らすため、全身麻酔装置と生化学自動分析装置を導入することになり、その購入費用約 67 万元を草の根無償資金より供与した。病院の入り口には、日本の草の根無償資金より機材購入の援助を受けたことを示すプレートが設置され、広く知られるようになった。

<関連写真>



【安徽省懷寧縣第四人民醫院建設計畫】

被供与団体:安徽省懷寧縣第四人民醫院

供与額:81,113 米ドル

契約署名日:平成 15(2003)年 2 月 20 日

案件概要:

懷寧縣は、安徽省南西部、人口約 600 万人の安慶市に属する人口約 78 万人の県である。県第四人民病院は、周辺地域 15 万人を対象とし医療サービスを行っており、病棟面積約 2,000 m²、ベッド数 60 床、職員 60 人で、年間外来患者数は延べ 8 万人に上る。従来の病棟は 1960 年代に建てられた煉瓦作りで耐久性に欠け、1998 年と 1999 年の大洪水で大きな被害を受けた後、一級危険建物に指定され、補強のための応急措置を施した上で、複数の科が混在した部屋で医療サービスを提供していた。同院は国道の沿線にあり交通の便が良く、人口 15 万人をカバーする中核的な医療機関となることが期待されていたことから、県では 1999 年末、病院の再建計画を決定した。

本計画は、同院再建において、新病棟(4 階建て 1,788 m²)建設費 140 万元のうち、不足分 67 万元を草の根無償資金より支援するというものである。本件の実施により、2004 年 2、3 月の外来患者数並びに収入が昨年同期よりそれぞれ 60%、50%増加するなど、顕著に効果が出ており、患者からの喜びの声も報告されている。

<関連写真>



新門診樓
新問診棟



草の根無償資金協力記念碑

【安徽省来安縣聾啞學校校舍建設計畫】

被供与団体:安徽省来安縣聾啞學校

供与額:81,113 米ドル

契約署名日:平成 15(2003)年 2 月 21 日

案件概要:

来安縣は、安徽省東部、江蘇省との境に位置するジョ州市管轄下の農業県である(人口 48 万人)。来安縣聾啞學校は、1974 年に設立された同市唯一の障害児を対象とした学校(9 年制)で、知徳体のバランスの取れた教

育を実践している。過去の卒業生のうち、5名が全国身体障害者運動会で受賞、1名が長春大学に進学するなど、聴覚障害児の社会的自立に大きく寄与してきた。同校の施設は、校舎(750 m²)、生徒全員が寄宿する宿舍棟(500 m²)、総合楼(600 m²)、食堂及び教職員宿舍であったが、生徒数の増大に伴い、規模の拡大が見込まれ、また、建物の不足、老朽化が激しかったため、新たに校舎を建設し、言語訓練器材、パソコン等の機材を整備して、より多くの聴覚障害児を対象とした中核的な教育施設を再建することとなった。新校舎は、3階建て、1,303 m²で、建設費用約81.9万円のうち約67万円(建設費用)を草の根無償資金より支援した。

(生徒から当館に寄せられた感謝の手紙)

「新教室への移動」

2004年2月19日の午後、私達は校長先生、先生方の引率の下、わくわくドキドキしながら新校舎に引っ越ししました。

校舎の外壁はクリーム色、下の方に青いタイルが貼られ、正面玄関には4本の太い円柱があり、日本政府草の根・人間の安全保障無償資金協力という銅プレートが掲げられていました。

教学棟に入ると、以前の校舎とのあまりの変化に驚きました。雪のような白い壁、明るいガラス窓、広く大きな黒板、きちんと並べられた椅子！後の黒板には「日中友好共存！」と我々の心の願いが書かれています。とっても心地よい教室！同級生は口々にはしゃぎ、「学習条件が良くなったから、もっとがんばって勉強しよう。」「学校は日本の草の根援助だから、日本国民に感謝しよう！」と話す者、「絵や踊りで我々の感謝を伝えよう！」と言い、絵を書く者(注:写真参照)いろいろです。笑い声が学校中に響き、みんな、手話で「頑張って勉強し、私達を応援してくれる皆さんの期待に応えよう」と言いました。

8年生 王雨・王濤

<関連写真>



过去的学校

支援前の学校



过去的教学楼

支援前の教学楼



在新校舍里上课

新校舍での授業の様子



新校舍

新校舍



草の根無償資金協力の記念プレート



学生寄来的繪画作品

生徒から送られてきた繪画

【安徽省長豊県泉山医院ハンセン病予防治療センター建設計画】

被供与団体:安徽省長豊県泉山医院

供与額:81,113 米ドル

契約署名日:平成 15(2003)年 2 月 20 日

案件概要:

長豊県泉山医院は、1966 年にハンセン病隔離病院として開設された。同院は、入院患者を含む生存者の治療や、再発予防のための巡回指導及び毎年数例発生する新しい患者の治療等を行っている。

開設当時は、ハンセン病に対する差別的な観念が根強く、同病院は極めて辺鄙な場所に建設され、省級の幹

線道路が近くまで通じてはいるが、そこから同院までの約 4 kmには未舗装の農道しかなく、雨期には車の通行も困難な状況であった。建物も煉瓦作りの平屋で老朽化も著しいため、同院では幹線道路沿いに新しい 3 階建て 1,380 m²の病棟を建設した。本計画は、その建設費用における不足分 67 万元を草の根無償資金が支援するというものである。本件実施後、診療科目を他の感染症にも拡大させ、長期的な救急医療に対応しており、患者 200 人余りが直接的に裨益するだけでなく、モニターの及ぶ同県内の 98 万人が間接的に裨益する。また、今後、救急医療が導入される予定で、そのサービスの及ぶ範囲は周辺の 5 万人になる。

【安徽省銅陵県鐘鳴鎮中心小学校舎再建計画】

被供与団体：安徽省銅陵県人民政府

供与額：70,570 米ドル

契約署名日：平成 15(2003)年 2 月 20 日

案件概要：

1949 年に開校した鐘鳴鎮小学校は、生徒 657 名、教職員 27 名が教室不足のため 3 カ所に分散して授業を行っていたが、計 1,300 m²が危険建物となっていた。本計画は、高台に新たに土地を区画し、周辺の教育条件の悪い学校の一部の生徒も入学できる新しい総合小学校の校舎を建設するというものである。建設費用は約 113 万元で、うち地元政府の各部門が計 55 万元を拠出し、草の根無償資金が不足分約 58 万元を供与した。校舎は 4 階建て、3,026 m²で、34 部屋（うち 24 室は教室、その他は実験室等）を備え、1,200 人を収容することができる。

（裨益効果）

約 1,200 名の就学条件が大きく改善され、通学対象地域である 7 行政村、3.2 万人が間接的に裨益した。

その後、現地政府の教育予算の充実により、校舎はさらに増築されたが、草の根の支援により建設された校舎も引き続き一部授業や課外活動の拠点として利用されている。また、建物 3 階にある 100 人収容のマルチメディア教室は報告会や講座などに使われている。



草の根の支援により建設された校舎(左手)とその後
増築された校舎(右手)
(2018年1月18日撮影)



ODA プレート
(2018年1月18日撮影)



草の根の支援をきっかけとして当館が同校で実施した日本文化紹介講座
(2018年1月18日撮影)



【安徽省ジン県蘇紅郷中心小学校建設計画】

被供与団体:安徽省ジン県蘇紅郷人民政府

供与額:80,871 米ドル

契約署名日:平成 15(2003)年 2 月 20 日

案件概要:

ジン県は、人口が分散し基盤産業が未発達で、一人当たりの平均年収は 1,880 元と省級重点貧困県である。蘇紅郷は、安徽省南部の山間部に位置する人口 8,300 人余りの農村で、ジン県の中心部から 20 km程離れている。

蘇紅郷小学校は、同郷の中心小学校として 1952 年に開設された。校舎は、1970 年代に建てられたものを修

理しながら使っていたが、大半が危険建物であることに加え、教室の絶対数が不足しており、2003年の生徒数は440人、教師数は25名である。

本計画は3階建て676㎡の新校舎、3階建て515㎡の実験・事務棟に加えて60名の生徒が寄宿できる宿舎、食堂等を整備するものである。再建に当たっては、山間部に分散する村から通学することになる生徒のための宿舎も必要とされている。本件では、約66.8万元を支援し、主として校舎と実験・事務棟の建設費用に充当される。

<関連写真>



新校舎



竣工式の様子



旧校舎正門

旧校舎正門



两幢房屋建于七十年代初, 经泾县房管处鉴定为C级危房, 应停止使用

1970年代初頭に建設された建物は、危険家屋C級に認定され、使用できない状況。



旧教室(四十余人挤在 36 平方米的教室内,拥挤不堪)

旧教室(四十人余りが 36 平米の教室内で授業を受けていた)

【安徽省休寧県身体障害者総合サービスステーション建設計画】

被供与団体:安徽省休寧県身体障害者連合会

供与額:81,852 米ドル

契約署名日:平成 15(2003)年 11 月 25 日

案件概要:

休寧県は、安徽省最南端に位置する人口 27.5 万人の農業県で、1 人当たりの平均収入は 2,190 元である。全県の障害者数は、全人口の 4.65%に当たる 12,538 人(うち視力障害者 1,643 人、聴力・言語障害 2,038 人、肢体障害 4,748 人等)に上り、大部分は農村部に分散している。そのうち、労働能力があるものは全障害者の 51.5%に達しているが、特別な職業訓練を受ける機会もなく、また市場経済化の波に押され、地元企業が倒産したことから、4,000 人以上が職を失い貧困状態に陥っていた。

同県身体障害者連合会は、こうした状況を少しでも改善するため、リハビリや職業訓練を実施していたが、十分な施設がなかったことから、同県に総合サービスステーションを開設する運びとなった(草の根無償資金は主に建設費用部分に充当された)。同サービスステーションは、白内障患者の術後のリハビリや、聴力障害児の語学訓練、肢体障害者の歩行・作業訓練等を毎年 700~800 人に提供しており、うち約 100 名は再就職して、社会的自立が可能になることが見込まれている。更に、将来的には障害児の就学率、労働能力を有する障害者の就職率を大幅に向上させ、貧困状態にある障害者の割合を全体 10%以下にすることを目標としている。現在、同サービスステーションでは肢体障害者の技能訓練、聴力障害児の訓練他が開始されており、再就職先が決定するなどの具体的な成果が受益者より報告されている。

<関連写真>



旧施設
旧施設



旧肢体矯正部
旧肢体矯正部



新施設



記念プレート

【安徽省桐城市嬉子湖鎮肖店中学校校舎建設計画】

被供与団体:安徽省桐城市嬉子湖鎮肖店中学校

供与額:78,692 米ドル

契約署名日:平成 15(2003)年 11 月 25 日

案件概要:

嬉子湖鎮肖店中学校は 1971 年に建設され、1,000 名以上もの生徒・教員が使用しており、村政府の建物を間借りしても教室数が不足していたため、鎮政府は 6 年計画で学習環境を整備する計画を立てた。

本計画は、まず第一期の計画として4階建て、2,932㎡の新校舎1棟を建設するものである。本件の実施により、同校に通学する1,600人の生徒の学習環境が改善され、義務教育の質の向上という観点から見れば、周辺住民2.5万人に裨益する。

<関連写真>



旧正門
旧正門



旧校舎
旧校舎



新校舎



草の根無償資金協力記念碑

【安徽省岳西県天堂中学校中日友好教学棟建設計画】

被供与団体:安徽省岳西県天堂中学校

供与額:73,212 米ドル

契約署名日:平成 15(2003)年 11 月 25 日

案件概要:

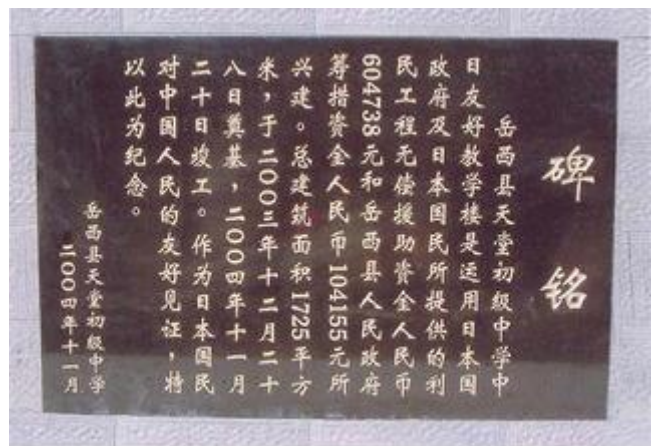
安徽省南西部の山間に位置する岳西県は、人口約 40 万人、産業は農業のみで、2002 年の 1 人当たりの平均収入は 1,448 元の国家級貧困県である。天堂鎮(村)の中核的な役割を担う天堂中学校は、1974 年に開校したが、校舎は煉瓦を積み重ねただけの平屋で、長年の風雨に晒され、危険建築物 D 級(危険度が最も高いレベル)に指定されていた。そのため、県政府は、2001 年に、同校の校舎から約 2.5 km 離れた交通の便の良い場所に新校舎を建設した。新校舎において他校に通学していた生徒を含む中学 1、2 年生の 20 クラス、約 1,080 人が授業を受けていたが、3 年生(501 人)は依然として崩壊の危険のある旧校舎で授業を受けており、教育環境を改善する必要に迫られていたが、資金面の拠出が困難であった。

本計画は、今後の学生増加にも対応できる教学棟(1,725 m²)の建設資金の一部を支援するものである。本件の実施により、村の適齢期の児童が全て入学できたこと等、嬉しいニュースが報告されており、今後も同校は模範中学校として発展し続けることが期待されている。

<関連写真>



新校舎
新校舎



草の根無償資金協力記念碑



校舍为土木结构，是 70 年代群众献工献料而建。

1970 年代に建設された旧校舎



教室断垣残壁，墙体受风雨侵蚀，屋面漏雨

旧教室は風雨に侵食され、天井から雨漏りがしていた。

【安徽省金寨县铁冲乡中学校教学棟建設計画】

被供与団体：安徽省金寨县民間合作協会

供与額：79,369 米ドル

契約署名日：平成 16(2004)年 3 月 19 日

案件概要：

国家級貧困県である金寨県にある鉄冲郷中学校は、同地で唯一の中学校で、県中心部から非常に遠い辺鄙な山岳地帯に位置していたため、98%の生徒は寄宿していたが、週に 2 回食料等を取りに帰宅し、その翌日は半分の生徒が 3、4 時に起床し、15 キロ～20 キロの道のりを徒歩で通学しなければならなかった。校舎の 80% 以上が D 級レベル(最も劣悪な状況)の危険建築物であると認定されていた。また、一年に 40～50 日間、雨漏りのため、授業が中止されることもある。このような状況に加え、当地は水資源に乏しく、生活水は生徒の半分がようやく生活できる程度の水量しかなかった為、不足分は近くの河に水汲みにいくことでしのいでいた。

本計画は、貯水池を備えた敷地に学校を移転し、1,340 m²の教学棟を建設するものである。また、中国側の資金で宿舎を建設し、教育環境の向上を図る。本件の実施により、約 700 名の学生・教師の教育環境の向上につながり、間接的には 1.2 万人に裨益する。

<関連写真>



支援前の教室、宿舎



支援前の中学校全景



新校舎

【安徽省潜山県中国医学病院中日友好診察棟建設計画】

被供与団体:安徽省潜山県中国医学病院

供与額:111,232 米ドル

契約署名日:平成 16(2004)年 3 月 19 日

案件概要:

潜山県中国医学病院は、県の中心から離れた旧市街地に位置しており、毎日約 300 人の外来患者のうち半数は公共交通機関がなく通院が不便であった。また、救急患者への適切な対応も困難な状況にあった。

本計画は、市中心部に 163.9 万元の診察棟 (3,100 m²) を建設し、不足分 91.87 万元を草の根無償資金で支援したものである。本件の実施により、管轄地区 8 万人に裨益することが期待されている。今後、中国側の資金で必要な医療器材を逐次購入し、医療従事者向けのトレーニング等も実施される予定である。

<関連写真>



支援した診察棟



草の根無償資金協力の記念碑

【安徽省淮南市潘集区田集中学校教学棟建設計画】

被供与団体:安徽省淮南市潘集区田集中学校

供与額:87,167 米ドル

契約署名日:平成 16(2004)年 3 月 19 日

案件概要:

田集郷は人口約 3.8 万人の農村で、2002 年度の一人当たりの平均収入は 1,215 元の省級貧困県区である。南には淮河、北には茨淮新河を臨み、また東西を泥河が横切っているため、雨が降るとすぐに川が氾濫し、水害が発生してしまう。ここ 10 年間の内、ほぼ 2 年おきに洪水に見舞われ、昨年の洪水では約 1,270 ヘクタールの農地が浸水し、955 軒の家屋が倒壊し、住民約 1.6 万人が被害を受け、ただでさえ苦しい農民の生活に拍車をかけることとなった。

同郷には 1970~1980 年代に建設した学校があるが、その建物の 80%が危険建築物に認定されたため、これらの学校は閉鎖され、児童はその付近の空き工場等で授業を受けており、これまで学校の代替地を求めて場所を転々としたため、劣悪な教育環境が教師の質に悪影響をもたらしただけでなく、生徒達にも大きな影響を及ぼし(中学 3 年生の中退率は 60%)、非常に深刻な問題となっていた。

本計画は、5 階建ての 2,650 m²の新校舎を建設するもので、劣悪な教育環境にある三つの学校を田集中学校

に統合し、約 1,100 名の学生に裨益する。建設費 116.6 万元のうちの基礎工事部分の 72 万元を草の根無償資金より支援した。

【安徽省宿松県居巢区衛生院医療設備整備計画】

被供与団体:安徽省商務庁

供与額:81,676 米ドル

契約署名日:平成 16(2004)年 12 月 1 日

案件概要:

宿松県は、安徽省安慶市に属する国家級貧困県(年間平均収入 850 元)であり、同県洲頭郷、居巢区槐林鎮はいずれも自然災害多発地域である。当地の農民は衛生意識が低く、疾病を予防する意識も低い。洲頭郷、槐林鎮にそれぞれ設けられた衛生院が重要な役割を果たしているが、これらの衛生院は、10 年前に購入した超音波機材及び簡単な顕微鏡などの医療機器しか所有しておらず、住民に対する適切な医療サービスの提供には限界があった。また、医療従事者の医療技術も低いため、適時に正確な診察ができず、他の病院に転送されるケースも多かった。

本計画は、このような医療ニーズに応えるために、洲頭郷、槐林鎮の中心衛生院の医療器材を供与し、医療水準の向上を図るものである。本件の実施により、それぞれの衛生院において、年間 5 万人の患者に裨益している。

<関連写真>



医療器材引渡し式



支援した医療器材



草の根無償資金協力の記念プレート

【安徽省金寨県沙河郷衛生院整備計画】

被供与団体:安徽省金寨県沙河郷衛生院

供与額:76,773 米ドル

契約署名日:平成 16(2004)年 12 月 1 日

案件概要:

沙河郷衛生院は、国家級貧困県である金寨県(年間平均所得 716 元)にある 1970 年代に建設されたレンガ造りの平屋で、所有していた器材は全て 1970~1980 年代に購入したもので、住民に十分な医療サービスを提供できる環境が整っていないため、ごく一般的な病気にしか対応できない状況にあった。2002 年の統計によると、年間に診察を受ける外来患者は約 12,000 人、うち救急患者は 600 人、高度な医療技術を要する患者は他の病院に転送せざるを得ず、その数は年間 600 人に上り、同院の誤診率は 5%と極めて高い上に、救急車がないため、患者の搬送中に患者が死亡してしまうケースも多い(年間 51 名)。また、病室数が不足しており、レントゲン室と心電図室、手術室と更衣室等の多くの部屋を共同で使っており、入院患者が多い場合は廊下にベットを並べることもあった。

本計画は、草の根無償資金で同院に医療サービス棟を増設し、医療器材及び救急車を購入し、中国側の資金で医療トレーニングを行ない、ハード・ソフト共に医療施設の充実を図り、山岳地帯における医療レベルの向上を目指すものである。本件の実施により、受益者は年間のべ 2.8 万人に上り、救急患者の病院転送率も減少することが期待される。

<関連写真>



支援前の衛生院

【安徽省潜山县後冲中学校中日友好草の根棟建設計画】

被供与団体:安徽省潜山县後冲中学校

供与額:78,435ドル

契約署名日:平成16(2004)年12月1日

案件概要:

後冲中学校がある潜山县は、安徽省の西南部に位置し、1人当たりの年間平均収入は約900元の国家級貧困県である。同校の校舎面積計は2,424㎡で、全校舎の60%が危険建築物に認定されており、5クラスは危険校舎で、4クラスは近くの民家を借り上げて授業を行っており、教育環境は理想から程遠い状況にあった。

本計画は、危険校舎を撤去し、教学棟及び実験室、図書室、宿舎等を備えた総合棟(3階建て、建築面積1,020㎡)を建設し、危険校舎で授業を受けている生徒の教育環境が向上するものである。本件の実施により、約900名の学生と教師に裨益し、教育棟は「中日友好草の根棟」と名付けられ、校舎の正面に大書されている。

<関連写真>



新総合棟



竣工式の様子

【安徽省桐城市障害者就職トレーニングセンター建設計画】

被供与団体:安徽省桐城市障害者連合会

供与額:74,213 米ドル

契約署名日:平成 17(2005)年 3 月 15 日

案件概要:

桐城市の障害者は 1.1 万人に上り、職を持たない障害者は経済的に困窮しているケースが多く、最低貧困ラインにさえ到達しておらず、衣食さえ不十分な状況にあった。そこで、障害者の就職を支援するため、90 m²の場所を賃貸し、毎年 2 クラス、約 100 名の障害者に就業トレーニングを実施し、就職率は 75%と成果を上げていたが、既存のセンターでは規模が小さく、トレーニング内容も専門性に欠けることから、障害者の需要に対応できない状況にあった。

本計画は、文化知識(非識字者対象(同市の障害者識字率 51%))、コンピューター、裁縫、家電修理、養殖栽培等のトレーニングを実施し、文化知識講座、その他の職業訓練講座の年間受講者それぞれ 600 人、1,000 人を受け入れるための新しい就業トレーニングセンター(1,519 m²、5 階建て)を建設するもので、基礎工事部分(直接工事費)61.3 万元を草の根無償資金が支援し、残り 79.2 万元を中国側が拠出した。本件の実施により、年間 1,600 名(一部は識字教育)の障害者及びその家族に裨益している。

<関連写真>



支援したトレーニングセンター内の様子



室内の様子



教材



草の根無償資金協力の記念プレート

【安徽省銅陵県朱村鎮中心小学校教学棟建設計画】

被供与団体:安徽省銅陵県教育体育局

供与額:82,007 米ドル

契約署名日:平成 17(2005)年 3 月 15 日

案件概要:

朱村中心小学校がある銅陵県は、安徽省中南部に位置し、7 鎮 10 郷 184 村からなり、人口は 31.6 万人である。昔から水害多発地域として知られており、1998 年の大洪水では同県の学校計 8,400 m²が浸水し、11,793 ha

の農地が被害を受けた。

同県の中核小学校の一つである朱村中心小学校は、1,400 m²の校舎を有すが、その内 990 m²は D 級危険建築物に認定され、児童 870 名の安全が懸念されていた。また、当時、教育資源の有効利用等の目的から、学校統廃合が進んでおり、周囲の学校 6 校(その多くは危険建築物)の児童計 637 人が朱村中心小学校に転校予定となっており、校舎が著しく不足する状態にあった。

本計画は、今後の生徒の増加数を考慮し、4,300 m²、4 階建ての校舎を建設するものである。本件の実施により、6 校の児童及び教師 1,000~1,300 名が良好で安全な環境下で勉強することが可能になり、児童の学習環境が大きく改善される。

【安徽省黄山区烏石中学校校舎建設計画】

被供与団体:安徽省黄山区人民政府外事弁公室

供与額:86,530 米ドル

契約署名日:平成 18(2006)年 3 月 24 日

案件概要:

烏石中学校は、約 800 m²の校舎の全てが D 級危険建築物(全体がいつ壊れてもおかしくない危険な建物)に指定され、移転した小学校の旧校舎を借用している他は、D 級危険家屋の中でも比較的危険度が少ない部分を校舎として使用せざるを得ない状況にあった。

本計画は、草の根資金で新たに中学校校舎(3 階建て・12 教室・1,218 m²)を建設し、中国側の資金で食堂を建設するものである。本件の実施により、800 人以上が、良好で安全な環境で学習できるようになり、校舎として使用していた旧小学校校舎が寄宿舎として活用できるため、学習環境が大幅に改善される。

<関連写真>



竣工式の様子



新校舎

【安徽省旌徳県白地鎮江村中心小学校建設計画】

被供与団体:安徽省旌徳県白地鎮江村中心小学校

供与額:74,671 米ドル

契約署名日:平成 18(2006)年 3 月 24 日

案件概要:

1934 年に開校した江村小学校は、D 級危険家屋に指定されているが、省級指定重要文化財に隣接している為、新築は禁止されており、移転せざるを得ない状況にあった。周囲の小学校も老朽化が著しく改築の必要があるため、県教育局は、五つの小学校を統合し新たな小学校を建設する事にした。

本計画は、同校の新校舎(2 階建て、8 教室)を建設し、学習環境の全面的な改善を図るものである。本件の実施により、生徒約 600 名と周辺の住民 1.5 万人に裨益する。

<関連写真>



新校舎



新教室



記念碑

【安徽省阜陽市潁泉区蘇屯郷楊庄小学校建設計画】

被供与団体:安徽省阜陽市潁泉区蘇屯郷楊庄小学校

供与額:80,780 米ドル

契約署名日:平成 18(2006)年 3 月 24 日

案件概要:

楊庄小学校は、1964 年に創立されたが、1975 年に洪水の被害に遭い、校舎が倒壊した。まもなく再建されたが、その一部は 2002 年に D 級危険建築物(建物の構造全体が危険な状態)に認定され取り壊された。残る 560 m²の教室(1996 年建設)は劣悪な建築材料を用いて建設された為、C 級危険家屋(建物の一部が危険な状態)となっていた。約 600 名の生徒は、その教室と民家を借り上げた 2 教室を使用し学習していた。更に、周辺の学校と統合され生徒が 800 名程度になることから、校舎の建設が必要とされていた。

本計画は、新校舎(4階建て、12クラス、1,705 m²)を建設するものである。本件の実施により、生徒約 800 名が安全で良好な環境下で勉強できるようになり、児童の教育・就学環境が大幅に改善される。

<関連写真>



新校舎の教室内



学生達の作品 書道や絵画など



支援した校舎

【安徽省太湖県労働職業技術トレーニングセンター教学棟建設計画】

被供与団体:安徽省太湖県人民政府

供与額:79,498 米ドル

契約署名日:平成 18(2006)年 11 月 30 日

案件概要:

太湖県の労働職業技術トレーニングセンターは、以前、臨時の教室を使用していた為、多くの人々に今後とも安定的に職業訓練を与えていくという社会のニーズに十分応えることができない状況にあった。

本計画は、毎年 3,400 人が受講できる新たな労働職業技術トレーニングセンターの教学棟(5 階建、2,004 m²)を建設するもので、建設資金のうち材料費用 63.36 万元を草の根無償資金で支援した。本件の実施により、年間延べ受講生数は約 1,200 人から 3,800 人に増加し、受講者の職業技術トレーニング環境が改善され、受講生の就業が安定するだけでなく収入も増え、受講生の家族と雇用する側の当地企業にも広く裨益している。

<関連写真>



労働職業技術トレーニングセンター教学棟



ODAプレート



教室①



教室②

【安徽省鳳台县李冲回族郷中日友好科技教育実験センター建設計画】

被供与団体:安徽省鳳台县人民政府

供与額:84,820 米ドル

契約署名日:平成 20(2008)年 3 月 3 日

案件概要:

李冲回族郷には、1 万人以上の回族が暮らしており、これは安徽省に住む回族の 95%に相当する。近年、貧困からの脱却のため、農業技術を学ぶ意欲のある民衆が多くなっているが、当地には関連施設がなく、農業技術訓練の場として活用できる実験棟を建設する必要性が高まっていた。

このような状況を受け、県政府は、回民中学に隣接する土地に、面積 831 m²、3 階建ての科学技術実験センターを計画したが、資金不足のため、建設費用 110 万円のうち主体工事費約 59 万円を草の根無償で供与した。

本件の実施により、回民族中学校の教師生徒のみならず、郷内の小学校教師の育成訓練施設としても利用されている。郷全体の農業技術の発展を促進することができ、全郷約 2 万 3 千人に裨益する。

<関連写真>



支援した実験センター



センター内の様子

【安徽省宣城市ジン県黄村鎮敬老院建設計画】

被供与団体:安徽省ジン県人民政府

供与額:83,968 米ドル

契約署名日:平成 20(2008)年 3 月 3 日

案件概要:

黄村鎮には、約 260 名の身寄りのない老人がいるが、1992 年に設立された唯一の敬老院は危険家屋と認定されており、平屋 300 m²しかなく、16 人しか収容できない状況にある。

本計画では、統廃合により廃校となった中学校の敷地及び旧校舎を活用し、80 室 120 人収容可能な老人住宅およびその周辺施設を整備するものである。本件の実施により、身寄りのない老人に直接裨益するとともに、鎮全体の養老事業の改善を促進することができる。



敬老院入口



ODAプレート



総合活動楼



老人用住宅

【安徽省碭山県趙屯郷薛口中学校総合棟建設計画】

被供与団体:安徽省碭山県人民政府

供与額:85,858 米ドル

契約署名日:平成 20(2008)年 3 月 3 日

案件概要:

碭山県は安徽省の最北端に位置し、人口約 86 万人、面積 1,193km²、県民一人あたりの平均年収 1,500 元の貧困県である。同県趙屯郷薛口中学校の校舎の一部は、1995 年及び 2002 年に立て替えられたものの、実験室、図書室、食堂、寄宿舍などの施設は 1970 年代初めに建設された危険家屋を使用していたため、劣悪な環境にあった。本件は、3 階建て、建築面積 1,200m²の総合棟の建設費約 59.9 万元を供与し、本校の教育環境の

改善を図るもの。

本件の実施により、1,000 名に増加すると見込まれる本校中学生の教育環境が改善され、当地の義務教育の普及が期待される。

<関連写真>



旧校舎 1



旧校舎 2



新校舎

【安徽省旌德县蔡家桥介护福祉施設建設計画】

被供与団体:安徽省旌德县人民政府

供与額:87,518 米ドル

契約署名日:平成 21(2009)年 3 月 10 日

案件概要：

旌徳県は、安徽省東南部に位置し、農産業を主な産業としており、経済基盤が脆弱なため、出稼ぎ労働者が多く、福祉施設での介護ニーズが増加している。

同蔡家橋鎮にある蔡家橋敬老院は、1990年に建設されたレンガ造りの2階建ての建物を使用していたが、老人にとって階段の昇降が不便な上、車の往来が多く老人たちの安全を脅かしていたため、現在、衛生院を臨時で敬老院として利用している。しかしながら、同鎮には、現在身体障害、独居等の理由により、介護を必要とする老人が約50人おり、現有の施設だけでは収容できない状況にある。

本計画は、当該衛生院を取り壊し、浴室・活動室・医療室等、介護に必要な機能を備え、収容可能人数を拡充した敬老院を新たに建設するものである。本件の実施により、入居者の生活環境を改善させるとともに、蔡家橋鎮の介護・福祉環境の改善を促進させる。

<関連写真>



支援前の敬老院外観



支援前の居住棟内部の様子



支援した敬老院



支援後の院長と入居中の老人たち

【安徽省宿松県許嶺中心衛生院診察病棟建設計画】

被供与団体:安徽省宿松県人民政府

供与額:87,251 米ドル

契約署名日:平成 21(2009)年 3 月 10 日

案件概要:

宿松県は、安徽省南西部に位置し、国家級貧困県に指定されている。農産業を主な産業としており、経済基盤が脆弱で、医療環境も整っていない。

許嶺中心衛生院は、同鎮唯一の衛生院で、1970 年代にレンガと木材で造られた建造物であるため、老朽化が激しく、危険家屋に指定されている。医療器材は、1994 年に購入したモノクロエコー診断機 1 台と X 線撮影機 1 台しかなく、満身に治療が行えない上、治療室が不足しており、点滴はすべて屋外で行っている。衛生院の収入は、運営に充てるだけしかない程わずかであるため、改築等はできず、増加する患者の需要に対応できない状況にある。

本計画は、診察病棟を建設するものである。本件の実施により、同鎮の住民 5.4 万人及び周辺各鎮の住民 30 万人の医療衛生環境と衛生院医療スタッフの就業環境が改善される。

<関連写真>



支援前の衛生院入り口



支援前の診察病棟



支援後の衛生院入口



支援後の診察病棟



ODAプレート

【安徽省望江县高士中心卫生院医疗技术棟建設計画】

被供与団体:安徽省望江县人民政府

供与額:87,249 米ドル

契約署名日:平成 21(2009)年 3 月 10 日

案件概要:

望江县は、安徽省南西部に位置し、省級貧困県に指定されている。農産業を主な産業としており、経済基盤が脆弱で、医療環境も整っていない。

高士中心卫生院で診察及び医療検査を実施している病棟は、レンガと木材で造られた建造物であり、老朽化が著しく危険家屋に指定されている上、産科と放射線科を同一の建物内に設けることは望ましくないと定める県

衛生局の基準に適合していない状況にあった。

安徽省及び望江县政府では、高士鎮の診療環境の改善を図るため総合棟の建設を進めているところ、草の根無償資金協力で同院に医療技術棟を建設することにより、同鎮の医療技術や安全性が増進し、同鎮の住民約8万人に対する医療環境の改善が期待される。

<関連写真>

(支援前)



衛生院の外観



建設中の総合棟

(支援後)



中日友好医技術楼



1階児童ワクチン接種室

【安徽省六安市裕安区獅子崗郷上水道整備計画】

被供与団体:安徽省六安市裕安区人民政府

供与額:86,784 米ドル

契約署名日:平成 21(2009)年 3 月 10 日

案件概要：

裕安区は、革命老区の一つで、安徽省六安市の西部に位置し、国家級貧困地区に指定されている。獅子崗郷は、旱水が頻繁に起こり、鉱物、農林水産資源に乏しい上、辺鄙で交通の便も悪く、経済は立ち遅れており、教育や医療保健の基礎的生活基盤が脆弱である。

同郷における年間平均降水量は 800mm しかなく、住民は、飲用水の水源として井戸水から 3 分の 2、雨水のため池から 3 分の 1 をそれぞれ得ているが、基準値以上の鉄・マンガン・カルシウムや細菌が含まれ、水質が衛生基準に適合しておらず、人口の約 3 分の 1 の人が安全な飲用水を確保出来ていない。周辺地域の住民約 5,500 人は、長期にわたり、上述の不衛生なアルカリ井戸水等を飲用しているため、23%以上の住民が伝染病や胃腸炎を患っており、健康を著しく損なっている。

本計画は、ダムに設置された給水所から引水する上水道を整備するものである。本件の実施により、プロジェクトサイト周辺地域の上水道の普及率は 95%以上になり、同地域の住民約 5,500 人および 500 頭以上の大型家畜並びにその近隣住民 4,000 人の安全な飲用水の確保が可能となるうえ、不衛生な水の摂取による疾病の発症率の減少が見込まれる。

<関連写真>



住宅地に掘られた井戸



1996年に設置した井戸と浄化槽

【安徽省黄山区烏石植林・灌漑用水整備計画】

被供与団体：安徽省黄山市黄山区人民政府

供与金額：87,434 米ドル

契約署名日：平成 22(2010)年 3 月 18 日

案件概要：

黄山区烏石郷の長芦ダムは、1978年に建設されたもので老朽化が進んでいる。同郷の水田は同ダムの下流に位置しており、洪水により度々水田が被害を受けてきたことや、同ダムが太平湖の重要な水源地であることから、数年前より省・区政府からの支援を受け、ダム下流域の灌漑水路整備を行ってきたが、下流農地全域をカバーするまでには至っていない。

本計画は、同ダムを強化し洪水を予防するための補修工事を実施するほか、ダム上流域に生態林 200 ムーの植林を行い、ダムの水質を改善するものである。本件の実施により、周辺住民 3,500 人の飲用水と 2,400 ムーの農地灌漑及び住居の安全が確保される。

<関連写真>



洪水による水害を受けた田畑 1



水による水害を受けた田畑 2
(手前が洪水により破壊された堤防跡)



支援後のダム下流 1



支援後のダム下流 2

【安徽省巢湖市居巢区柘皋鎮灌漑施設建設計画】

被供与団体:安徽省巢湖市居巢区人民政府

供与金額:88,002 米ドル

契約署名日:平成 22(2010)年 3 月 18 日

案件概要:

居巢区柘皋鎮の平家堰は、1958 年に建設したもので、老朽化が進行する中、雨水による侵食で上流の土砂が堰に堆積し、河床の一部が上昇し面積の 3 分の 1 が縮減している。また、排水用の水門がつまり、貯水能力が低下しているため、雨季には洪水が頻繁に発生し、周辺の田畑に水害をもたらす他、周辺住民の生活用水や灌漑用水が確保できない状況にある。

本計画は、同堰上流部分の補強及び底面、余水路の拡張整備を行うものである。本件の実施により、堰の貯水量が増加による洪水対策が行われ、周辺住民 4,700 人の生活用水と 5,000 ム一の農地の灌漑が可能となる。

<関連写真>



余水路(貯水池側:底面に土砂が堆積)



平家堰上流

【安徽省岳西県巍嶺ゴミ埋立場建設計画】

被供与団体:安徽省岳西县人民政府

供与金額:86,546 米ドル

契約署名日:平成 22(2010)年 3 月 18 日

案件概要:

岳西県巍嶺郷における住民の生活用品の消費は 5 年連続 10%増加しているが、現在、ゴミの管理体制が整っ

ておらず、洪水が起こるたびに川岸や橋の下に不法投棄されたゴミが下流まで流され、下流の住民は廃棄物により汚染された水を生活用水や飲用水源として利用している状況にある。

本計画は、改良型嫌気性発酵法（メタン発酵法）を採用したゴミ埋立場（容量 2,310m³）及び関連施設・器材（ゴミ運搬車両・ゴミ用タンク）を整備し、ゴミの分類、集中処理・収集・輸送を行うものである。本件の実施により、同郷約 4,000 名のゴミ廃棄問題を解決し、下流の潜山県塔畈郷の住民、長江中流、下流の住民や農工業生産に安全で良質な水の提供が可能となる。

（裨益効果）

完成後はごみ生みだて工場として利用され、土壌汚染の防止に役立てられたほか、ごみ処理方法が埋立てから焼却に切り替わった後も収集・運送のためのスペースとして活用されている。

<関連写真>

（支援前）



川岸のゴミ



路上のゴミ

（支援後）



埋立場

（2019年8月7日撮影）



ODA プレート

（2019年8月7日撮影）

【安徽省合肥市肥東県元トウ鎮放射状集水井建設計画】

被供与団体:安徽省合肥市肥東県人民政府

供与金額:102,533 米ドル

契約署名日:平成 23(2011)年 3 月 25 日

案件概要:

肥東県元トウ鎮は、長江淮河の分水嶺にあり河川が少なく貯水量も少ないうえ、年間降水量は僅か 520mm しかなく、農業用水が不十分なため慢性的に農業生産量が低く、農民の平均年収も 4,400 元と他地域に比べて立ち後れており、同地の農業発展にとって農業用水を確保することが大変重要な課題となっている。また、例年干ばつが起りやすく、大規模な干ばつの場合は住民や家畜が飲用している井戸水が枯渇するなど、飲用水の確保も大変困難である。

そこで、肥東県政府では、元トウ鎮内に用水路を整備しつつ、耕地 3,500 ムーの農業用水と周辺住民 3,000 人の飲用水を確保するため、直径 3m、深さ 40m、放射状に設置された 10m の集水管による放射状集水井 2 基を建設することとして、草の根無償資金協力を申請越したものである。

<関連写真>



干ばつ被害を受けた耕地



集水井の建設予定地

【安徽省六安市金寨県古碑鎮水坪村上水道整備計画】

被供与団体:安徽省六安市金寨県人民政府

供与金額:103,710 米ドル

契約署名日:平成 23(2011)年 3 月 25 日

案件概要:

安徽省六安市金寨県古碑鎮は県中部に位置する人口 3.5 万人の鎮で、農業を主要収入源とし、1人当たりの平均年間収入は 3,432 元である。このうち、水坪村の人口は 3,121 人で、現在、8つの水源地を主要な飲用水源としており、水源から近い一部の住民は簡易配水管で家庭まで引水することができるが、水源地から遠い住民の場合、300m 以上離れた地表水(河川、小規模の貯水池)から水を担いで飲料水としているなど、引水方法は極めて原始的である。また、現在使用している貯水池は、水の表面に木の葉や藻が浮遊しており、大腸菌などの細菌が国の定める飲料水基準を大幅に上回って含まれているにも関わらず、濾過・消毒しないまま飲料水として用いているため、多くの住民が腸の疾患に掛かっており、安全な飲用水の確保は喫緊の問題になっている。

そこで、金寨県政府では、古碑鎮水坪村の住民 3,121 人に安全な飲料水を供給するため、8つの水源地それぞれに貯水池(直径 3.2m、深さ 3.7m)及び消毒施設を建設し、貯水池に流入した地下水を消毒施設で処理した後、配水管を通じて各居住地区の中心地に引水することとして、草の根無償資金協力を申請越したものである。

<関連写真>



現在使用中の貯水池(1)



現在使用中の貯水池(2)

【安徽省救急センター管理分会トレーニングセンター器材整備計画】

被供与団体:安徽省救急センター管理分会トレーニングセンター

供与金額:97,990 米ドル

契約署名日:平成 23(2011)年 3 月 25 日

案件概要:

安徽省救急センター管理分会は安徽省内(17 地級市、5 県級市、56 県)の救急事業を向上させるために 2007 年 1 月に、安徽省医院管理協会によって設立された。同年 11 月には同分会にトレーニングセンターが設立され、省内各地に分布する救急センターの救急救命士 300 名に対する救助技術向上トレーニングを行うほか、住民の救急知識、技能を普及させるためのトレーニングを実施している。

現在、当該トレーニングセンターには、いくつかトレーニング用器材があるが、個数・種類ともに少なく受講者

が実際に器材を用いてトレーニングを受ける機会は限られているうえ、ほとんどが国産品で、劣化しており機能性も低いためトレーニング効果が十分に発揮できていない。

そこで、当該トレーニングセンターは、省内各地の救急救命士や住民の救急技能、知識を向上させるため、救急救命用トレーニング器材 17 種、計 40 個を整備することとして、草の根無償に申請越したものである。

<関連写真>



トレーニング中 1



安徽省救急センター



トレーニング中 2

【安徽省六安市裕安区連携農業改善計画】

被供与団体:安徽省六安市裕安区人民政府

供与金額:101,518 米ドル

契約署名日:平成 24(2012)年 3 月 26 日

案件概要:

徐集鎮は六安市裕安区西部に位置し、総面積 88.86 k m²、12 村と 1 町(街道)を管轄し、人口 4.1 万人のうち 3.6 万人が農民で、耕地面積 31.67 k m²を有し、そのうち水田面積は 19.2 k m²、林地 17.33 k m²。1 人あたりの平均年間収入は 4,610 元である。農業を主要産業とする徐集鎮は、財政収入が少ないため、農業水利への資金投

入が限られており、洪水に破壊された多くの水利施設は修復できず、農業に大きな支障をきたしている。

本計画は、水門 8 基、土手 5 基、調節水門 7 基、用水路 21 本を建設し、溝拡大、浚渫工事 8km を実施するものである。本件の実施により、灌漑規模を 1.33k m² 増加し、4k m² の灌漑条件を改善することができ、7,000 人に直接裨益し、3.6 万人に間接裨益する。穀物生産収入は年間 80 万元増収することができる見込みとして、草の根無償資金協力を申請越したものである。

<関連写真>

(支援前)



老朽化した調節水門



洪水で破壊された土手

(支援後)



調整水門



土手



ODAプレート

【安徽省馬鞍山市和県連携環境モデル推進計画】

被供与団体:安徽省馬鞍山市和県人民政府

供与金額:111,169 米ドル

契約署名日:平成 24(2012)年 3 月 26 日

案件概要:

歴陽鎮太平村の環境保護設備は立ち遅れており、村民の環境意識は低く、生活污水は各家庭から屋外へ汚水処理せず排出され、また各種ゴミは処理されず積み上げられ腐敗して雨水に溶けて用水路を通して村の東にある貯水池へ流れ込むため、貯水池の水質は悪化している状況である。

本計画は、生活排水、生活ゴミによる環境汚染を防ぐため、太平村太平庵地域に、処理量 100 m³/日の汚水処理設備1か所と処理量 5t/日のゴミ集積・転送システム(ゴミ箱 60 個、ゴミ集積所 15 か所、人力ゴミ回収車 10 台、密閉式ゴミ収集車 2 台)を整備し、生活排水を浄化処理し国が定める汚水総合排出基準を満たすようすることとして、草の根無償に申請越したものである。

<関連写真>

(支援前)



村の様子



池に捨てられたゴミ

(支援後)



汚水処理施設



ゴミ集積所



ゴミ回収車



ゴミ箱

【安徽省黄山市黄山区三口鎮農業改善計画】

被供与団体:安徽省黄山区人民政府

供与金額:111,407 米ドル

契約署名日:平成 25(2013)年 3 月 23 日

案件概要:

三口鎮中心部と三口鎮白果樹村、聯中村、湘潭村の3行政村の合計人口は約 3,000 人である。現有の堤防は河川の流れて侵食を受けており、河道は土砂で詰まり幅が狭くなっている。以前、当該河川区間は、堤防の補強を計画して資金調達を行ったものの、資金不足と計画不足の原因から十分な措置を行うことはできなかった。

本計画は、安徽省黄山区三口鎮において芦溪河の洪水対策として、現有の河川 350mを総合的に整備を行い、周辺住人 3,000 人の生活安全と農業生産の基礎となる水資源を確保するもの。具体的には、同鎮内の 350 mの河川区間において、始めに河川を清掃し障害物を取り除いて不要物を排除し、滞っている水などの流れを改善する。また、河道の兩岸の高さを嵩上げして補強工事を行い、新たに水防堤を建設して兩岸の養生を行うとともに、堰及び農道から省道へ出るための人道橋1基の修築を行う。

<関連写真>



支援前の河川1



支援前の河川2



支援後の河川1



支援後の河川2

【安徽省六安市金安区施桥镇草皮塘综合整備計画】

被供与団体:安徽省六安市金安区人民政府

供与金額:115,479 米ドル

契約署名日:平成 26(2014)年 3 月 23 日

案件概要:

サイト地の草皮塘村は、人口2,210人、村民の平均年収は5,408元であり、香稻作用水路の下流地域にある当村は特にインフラが脆弱である。水路は70年代に建造され、流水、漏れ水、及び水詰まりが深刻なため、現在当初の灌漑機能を発揮できていない。

本計画は灌漑施設の機能を回復させ、農民の収入増加によって、村民の生産及び生活条件を改善するため、水路の泥除去及びセメント強化(2,000m)、未舗装村道のコンクリート舗装(800m)、水路の泥除去及び拡張(6,000m)、貯水池の拡張(2箇所計10ム一)整備を行うものである。

(裨益効果)

道路の整備により、村民が外出する際の交通環境が大きく向上し、農作業用の車両が通れるようになったことから、農業生産の効率性も向上した。なお、整備され道路は日本を想起させる「富士路」と名付けられている。また、灌漑用水路の整備により周囲の1200ム一(約80万㎡)の農地に農業用水を供給でき、米の増産と増収が実現した。

<関連写真>

(支援前)



未舗装の道路



貯水池



水路

(支援後)



舗装した道路

(2019年6月21日撮影)



ODAプレート

(2019年6月21日撮影)



農業用水路の泥除去及びセメント強化

(2019年6月21日撮影)

【安徽省安慶市岳西県主簿鎮南田河総合治理計画】

被供与団体: 安慶市岳西県主簿鎮人民政府

供与金額: 98,266 米ドル

契約署名日: 平成 27(2015)年 3 月 31 日

案件概要:

安慶市岳西県主簿鎮南田村を流れる南田河は、近年の水災害により、護岸及び堰が破壊されてしまったが、これまで修復プロジェクトが少なく、100カ所・5キロメートルの護岸がまだ修復されておらず、また、50カ所の堰(川の水を堰き止める設備)もまだ修復されていない。その結果、南田村の農業の主要作物であるマコモダケ(中国野菜の一種)の収量が減少し、南田村の経済が厳しく制限されている。

南田村は護岸及び堰の修復に非常に積極的で、毎年、自ら資金を集め、小規模な修復工事を行っており、また、主簿鎮は南田村の護岸修復工事を水利計画に盛り込んではいないものの、未だ大規模な修復工事は実施できていない。

こうした状況の中、今回のプロジェクトでは、水災害で失われた南田河の灌漑機能を回復させ、村民の生活条件を改善するため、南田河の護岸、堰等の修復工事を実施する。

平成 27 年 3 月 31 日の署名式では、胡健・安徽省外弁領事処処長が「日本政府の善意に心より感謝したい。岳西県はプロジェクトをきちんと実施する責任を承諾した。総領事館の期待と地元民の期待を裏切らないよう、しっかりとプロジェクトを進めてほしい。」と述べたほか、呉小将・岳西県副県長が「我々は積極的に準備をし、関連部門を監督し、高品質でプロジェクトを完成する決意を持っています。在上海日本国総領事館の関心を裏切らないようにします。」と述べる等、日本政府の協力による本プロジェクトの実施に感謝の意が表され、また、プロジェクトの実施に対する意気込みが示された。

(裨益効果)

本プロジェクトの実施によって周辺の水田の灌漑機能と保水機能が回復し、マコモダケの収量と品質の向上が確保でき、村民の生活水準が向上した。

(裨益効果)

本プロジェクトの実施によって周辺の水田の灌漑機能と保水機能が回復し、マコモダケの収量と品質の向上が確保でき、村民の生活水準が向上した。

<関連写真>

(支援前)



水災害で一部が崩壊したダム(護岸)



崩壊した堰

(支援後)



修復した護岸

(2019年8月7日撮影)



修復した堰

(2019年8月7日撮影)

【安徽省蕭縣楊樓鎮尹庄行政村衛生室建設計画】

被供与団体: 蕭縣楊樓鎮人民政府

供与金額: 96,960 米ドル

契約署名日: 平成 27(2015)年 3 月 31 日

案件概要:

蕭県楊樓鎮尹庄行政村衛生室(診療所)は、現時点で9部屋あり、そのうちの5部屋は村立学校の教学樓の1階にあり、残り4部屋は2009年に造り上げた平屋にある。10年前に教学樓は危険建物となり、残り4部屋も老朽化している。また診療所の環境は暗くて風通しが悪い。近年では、部屋が足りないため、多くの患者は屋外での点滴を強いられている。

こうした状況の中、今回のプロジェクトでは、医療サービスの質を向上させるため、診察室、点滴室、職員事務室等を備えた新たな診療所を建設する。

平成27年3月31日の署名式では、胡健・安徽省外弁領事処処長が「日本政府の善意に心より感謝したい。岳西県はプロジェクトをきちんと実施する責任を承諾した。総領事館の期待と地元民の期待を裏切らないよう、しっかりとプロジェクトを進めてほしい。」と述べたほか、閻旭・蕭県副県長が「我が県の経済社会発展の支持に対して心から感謝申し上げます。厳格に在上海日本国総領事館の要求に基づき全力でプロジェクトを管理し、予定通りに竣工させることを約束し、日中両国の友好交流に貢献します。」と述べる等、日本政府の協力による本プロジェクトの実施に感謝の意が表され、また、プロジェクトの実施に対する意気込みが示された。

(裨益効果)

本プロジェクトにより、患者が安心して医療サービスを受けられる十分な数の清潔な診察室等を確保でき、そこで勤務する医師への勤務環境も大きく改善し、地域の医療拠点として活用されている。なお、2016年には安徽省衛生健康委員会から医療サービスの向上が認められ、「住民が満足できる村級衛生室」として表彰された。

<関連写真>

(支援前)



老朽化した衛生室



屋外で点滴を受ける患者

(支援後)



建設した診療所

(2019年8月8日撮影)



診察室

(2019年8月8日撮影)

【安徽省靈璧県下楼鎮陳潭村道路整備計画】

被供与団体: 靈璧県人民政府

供与金額: 87,546 米ドル

契約署名日: 平成 28(2016)年 3 月 25 日

案件概要:

靈璧県下楼鎮陳潭村において、住民生活の利便性向上等のため、農村道(幅 4メートル、延長距離 1 キロメートル)の舗装整備を行う。

(背景等)

陳潭村は、下楼鎮の西北部位置し、3つの自然村、13の村民グループ、2,060人を管轄している。耕地面積は 2,999 ムーで、1人当たりの年間収入は約 4,600 元である。村政府まで 3.5 キロメートル離れ、農村道の事情が悪く、職場までの通勤等の日常生活に支障が出ており、住民約 4,000 人の生活や村の経済発展が制限されている。

靈璧県は国家最貧困県であり、その中でも未だ舗装されていない陳潭村の農村道の舗装は重要性・緊急性が高い。特に、本プロジェクトは、隣接村同士をつなぐというものであり、陳潭村に隣接する程廟村に位置する鴨養殖場への通勤等、隣接村同士の交通が便利になり、日常生活における住民の交通の便が飛躍的に向上するものとして期待される。

農村道の舗装整備を草の根プロジェクトとして日本政府が支援することは、住民生活・現地経済への高い裨益効果が見込まれ、人間の安全保障の推進に資する。

(裨益効果)

本プロジェクトの実施により、工場や市場までの交通の便が大きく向上し、雨の日に、泥でぬかるんだ道を歩かずに済むようになった。また、農作業用の車両が通れるようになったことで、農業生産及び販売の効率性が高くなった。

<関連写真>

(支援前)



農村道の様子



農村道沿いに立ち並ぶ民家

(支援後)



農村道の様子

(2018年10月10日撮影)



ODAプレート

(2018年10月10日撮影)